



新中PRIDE

新野中 学校だより2024年(令和6年)6月25日



(No.5)6月25日号
発行 学校長 岡田 栄司

感動をありがとう～南部Bブロック夏季総合体育大会～

バレーボール、バスケットボール、野球の全3チームで臨んだ南部Bブロック夏季総合体育大会が閉幕しました。残念ながら県大会への出場切符は掴むことができませんでしたが、**3年生のみなさんは、ここまで本当によくがんばってくれましたね。**みなさんの心に、「やりきった」という気持ちがあるか、「後悔」があるかは分かりません。でも新中生の一番のファンを自負する私にとっては、「素晴らしい試合を見せてくれてありがとう」という気持ちでいっぱいです。見事なプレーで得点をもぎ取ったときも、試合に負けてしまったときも、みなさんは全員眩しいほど輝いていました。君たちは、青春という舞台の主役です。私たちファンを魅了するスターです。胸を張ってください。感動をありがとう！

野球部(6月17日・JAアグリあなんスタジアム)

対戦相手は最終的に優勝した強敵阿南中でした。先取点を許し、終始追いかける苦しい試合展開となりましたが、手に汗握るもの凄いい試合となりました。本校3年生は捕手として出場、ラスト3イニングは投手としてもいいピッチングを披露しました。本校3年生の放った本塁打級の大飛球が、あまりに飛びすぎてエンタイトルツーベースとなりました。あの打球がファンスに当たってれば・・・と悔やまれる場面もあり、終始ドラマ連続の試合となりました。4-6で惜敗となりましたが、素晴らしい試合を見せてくれました。



女子バレーボール部(6月22日・羽ノ浦スポーツセンター)

対戦相手は県選手権ベスト4の強豪羽ノ浦中でした。本校は部員の半数以上が中学生になってからバレーボールを始めています。それぞれの上達振りは目を見張るものがありました。試合展開は厳しいものになり、1セット目はなんとか健闘したものの、2セット目は大きく点差を離されてしまいました。しかしながら、応援団もくじけそうになる場面で、2名の3年生である、セッターとエースアタッカーが何度も素晴らしいコンビネーションからのアタックを決め、見ている私たちに大きな勇気を与えてくれました。



女子バスケットボール部(6月22, 23日・那賀川スポーツセンター)

女子バスケットボールは、参加5チームが総当たりで、二日間にわたり熱い闘いが繰り広げられました。結果は1勝3敗で5チーム中4位という結果でしたが、ミニバスケットでの経験のない生徒がほとんどの中で、中学校に入ってから競技を始めた本校3年生2名も、中心選手として大いにチームに貢献し、活躍しました。8分4クォーター、トータルで言えば1時間近い試合を、懸命に走り続ける生徒たち。二日間、4試合の激闘。卒業生も応援に駆けつけてくれました。2人の3年生がこの大会も「新中PRIDE」を見せてくれました。



陸上部もがんばっています！！県中陸上競技大会(6月15日・ボカリスエツスタジアム)



裏面もご覧ください♪カラー版はホームページに掲載しています

総体閉幕

女子バレーボール部、女子バスケットボール部、軟式野球部・・・本校の夏季総体が閉幕しました。昨年はこの3種目に加えてサッカー部が阿南二中、富岡東中との合同チームとして参加し、県大会へも勝ち進んで大いに私たちを楽しませてくれたこともあり、参加種目が3つに減ったこと、県大会への切符が取れなかったことは寂しいですが、新中生の一番のファンを自負する私にとって、生徒たちから大きな感動と興奮をもらった三日間になりました。

野球部の試合はドラマが山盛りでした。あの立派な球場で、電光掲示板に名前が載り、観衆の中で試合をするのは快感も、恐怖もあるかもしれませんが。それでも声を掛け合い、励まし合い、あのような劇的な展開の中で、生き生きとプレーする選手達は、本当に凄いなあと感じました。



ある保護者は、「対戦相手も自分のチームも子どものときから一緒に野球をやってきた仲間です。全選手知っている。その子たちが中学生になって試合をしているのが、本当に嬉しい。」とおっしゃっていました。保護者になってみれば、子どもの頃から見てきた我が子とその仲間が、スター軍団になり、大きな舞台上でプレーをしているのを見て、私たちとは比べものにならない程、感動しているだろうなあと感じました。



バレーボールは、本校唯一の単独チームですが、2年生6名はすべて中学校になってからバレーボールを始めました。バレーボール経験者である本校顧問は、これまで県優勝するような非常に強いチームを率いたこともありますが、現在はバレー経験の無い生徒たちにも丁寧に指導してくれています。今回の試合を見ていて、みんな本当に上手になったなあと感じましたが、県の上位チームが集まっている南部Bブロック大会では、常に厳しい戦いとなります。厳しい試合の中、意地を見せてくれたのはやはり3年生だったように思います。点差が離された中でも、副キャプテンのセッターが懸命にトスを上げ、キャプテンのエースがドカンとアタックを決めると、応援団も爆発するように盛り上がりました。勝ち負けを超越したように感じる生徒たちの頑張りに、勇気と感動をもらいました。

バスケットボール部は、二日間に4試合を行う消耗戦となりました。私は去年の4月、たしか選手権大会で、初めてバスケットボールの試合をきちんと見て、8分4クォーターという試合の過酷さに驚きました。そして、大きく点差をつけられた中でも懸命に走り続ける本校生徒の姿を見て、新中生の「誇り」を感じ、この学校だよりを「新中PRIDE」と名付けました。



試合には、そのときのメンバーである卒業生も高校生になって、応援に駆け付けてくれました。去年は単独チームでしたが、今年は3年生2名が、阿南二中と合同チームを組んでの参加でした。大好きな先輩たちが見守る中で、去年同様試合時間いっぱい、決して諦めることなく走り続ける生徒たちの姿に、改めて「新中PRIDE」を感じる二日間となりました。

総体での1試合1試合を、思い出しながら、このように学校だよりを書いています。いつもでも余韻に浸っているわけには参りません。当たり前ですが、今日も生徒たちは、日常の生活を送っています。

総体で感動的なプレーをしてくれた生徒もいれば、陸上部や文化部で青春を燃やしている生徒もいます。日々の学習をがんばっている生徒もいれば、勉強が苦手な生徒もいます。仲間と楽しい学校生活を送っている生徒もいれば、悩んだり、苦しんだりしている生徒もいることなのでしょう。今回総体で大きな感動をもらった私たちですが、これが新中のすべてなどとは露程も思っておりません。

改めて、新中生ひとり一人に寄り添い、生徒たちが自分の居場所で輝き、成長できる学校をめざして参ります。困りごとなどはいつでもご相談いただくとありがたいです。

今後とも、ご支援・ご協力どうぞよろしくお願いいたします。

